

(様式2)

平成29年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	県南教育事務所	学校名	奥州市立東水沢中学校	TEL	0197-24-2165
------	---------	-----	------------	-----	--------------

中学校英語科におけるコミュニケーション能力を高めるための指導の在り方
 ~間違いから学び、主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成を目指して~

【ねらい】

中学校英語における学習過程において、“間違いは失敗ではない”“間違いから学ぶ”という態度で英語を積極的に使い、より主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成を目指した指導方法の改善を図る。

【具体的な取組】

1 正確さと流暢さをバランスよく育成する自己表現活動の工夫

(1) 学期末スピーキングテストに向けた単元スピーキングテストの実施

学期末スピーキングテストに向けた単元スピーキングテスト実施のため、CAN-DO リストと関連づけた年間指導計画を作成した。授業の中で十分に自己表現活動をさせ、単元スピーキングテストを行うというモデルステップの学習を繰り返し、学年末スピーキングテストで総合的に学習の成果を確認した。

単元		学習内容(目標)	時数	CAN-DOとの関わり					単元目標及び評価方法
題名	課			L	S (やり取り)	S (発表)	R	W	
PROGRAM7 The Wonderful Ocean	7-1	・人の名前などをたずねたり、その人物について紹介したりすることができる。	2h	4	4	1	6	(2)	【単元目標】 ①疑問詞を使って質問したり答えたりすることができる。 ②代名詞の使い方を理解することができる。 ③好きな有名人や家族、友だちを10文程度で紹介できる。 【評価方法】 ①単元スピーキングテスト(表現) ②ライティング小テスト(意欲) ③Dream Comes True(意欲)
	7-2	・人について「～を」「～に」と言うときに使うことばを使うことができる。	2h			1	5	(2)	
	7-3	・ものごとを行う時をたずねることができる。	2h	4	4		6	(2)	
	POWER-UP⑤ Speaking	・持ち主や持ち物についてたずねたり、答えたりすることができる。	1h	4	4			(2)	
	POWER-UP⑥ Listening	・英語のラジオコマーシャルを聞き、理解することができる。	1h	7					
	英語のしくみ②	・代名詞の使い方を理解することができる。	1h					3	
	単元スピーキングテスト	・自分の好きな人物について10文以上で紹介する。 ・教師からの簡単な質問に答える。	1h	4	4	2			
PROGRAM8 Origami	8-1	・できることを言うことができる。	2h			1	5	(2)	【単元目標】 ①助動詞canを用いた肯定文・疑問文・否定文について正しく理解し、適切に使うことができる。 ②疑問詞howの用法について正しく理解し、使うことができる。 ③許可を求める・依頼する表現を正しく理解し、使うことができる。 ④20個の疑問文をマスターすることができる。 【評価方法】 ①単元スピーキングテスト(1)(2)(表現) ②ライティング小テスト(意欲) ③Dream Comes True(意欲)
	8-2	・できることをたずねたり答えたりすることができる。	2h	4	4		6	(2)	
	8-3	・どのようにするかをたずねたり答えたりすることができる。	2h	4	4		6	(2)	
	POWER-UP⑦ Speaking	・許可を求めたり、依頼したりすることができる。	1h	6	3			(2)	
	POWER-UP⑧ Listening	・パーティーに出席している友だちどうしの対話を聞き、理解することができる。	1h	7					
	単元スピーキングテスト	・マイケルに自己紹介&インタビューをしよう。 ・マイケルについて10文以上の英文で紹介しよう。 (話す活動から書く活動へ)	1h	4	4			4	
My Project ②	人を紹介しよう	・20～25文程度の紹介文(自分自身と家族や友だち、好きなタレントなど)を表現豊かにスピーチすることができる。	4h			2		4	【単元目標】 1. 2学期に学習した英語を使って、20～25文程度の紹介文(自分自身と家族や友だち、好きなタレントなど)を表現豊かにスピーチすることができる。 【評価方法】 ①スピーキングテスト(表現) ②ライティング小テスト(意欲) ③Dream Comes True(意欲)

CAN-DO リストと関連づけた年間指導計画 (1学年)

(2) 正確さと流暢さをバランスよく育成するためのルーブリック作成及び活用

2学期末スピーキングテストでは、1学期の課題として残った「聞いている人を見ながら話す」と「伝えたい部分を強調しながら話す」の評価を2倍としたルーブリックを提示し、普段の授業からより聞き手を意識して取り組ませた。

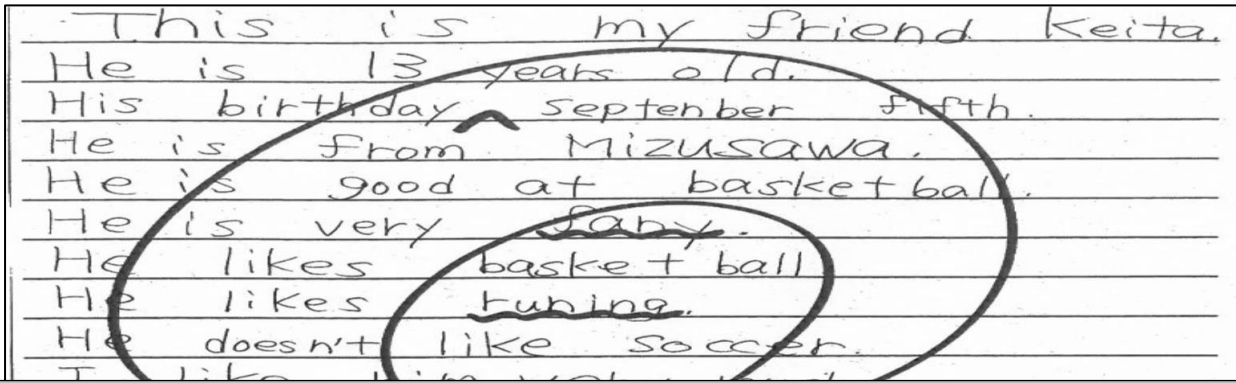
2学期スピーキングテスト 「自分と自分の好きな人物を紹介しよう！」評価表				
Class _____ No. _____ Name _____				
評価規準				
No.	評価項目	A (5点)	B (3点)	C (0点)
1	聞いている人に伝わるような声で話す。	聞いている人が聞きやすい声の大きさと発音。	聞いている人が聞きとれる声の大きさと発音。	ほとんど聞こえない声で発表。
2	強勢を意識しながら発表する。 (×2)	全ての文の伝えたい部分を強調しながら発表。	ところどころ伝えたい部分を強調しながら発表。	強調する部分がない発表。
3	原稿を覚えて自信をもって発表する。	マッピングをほとんど見ずに発表。	マッピングを3、4回見ながら発表。	マッピングを5回以上見ながら発表。
4	聞いている人たちを見ながら発表する。 (×2)	聞いている人たち(右側、左側、正面の人たち)を見ながら発表。	顔を上げて(正面だけを見ながら)発表。	顔を下げて発表。
5	ジェスチャーを交えながら発表する。	必要に応じて、ジェスチャーを交えて発表。		ジェスチャーを全く使わない発表。
6	聞いている人が興味・関心をもつような自己紹介の内容であるか。	話の内容が10以上ある。	話の内容が6～9ある。	話の内容が5以下である。
7	聞いている人が興味・関心をもつような人物紹介の内容であるか。	話の内容が10以上ある。	話の内容が6～9ある。	話の内容が5以下である。
8	文法・語順が正しく使われているか。	文法・語順の間違いが2つ以下である。	文法・語順の誤りが3つ～4つある。	文法・語順の誤りが5つ以上ある。
合計				50

評価を2倍に設定

2学期スピーキングテスト「自分と自分の好きな人物を紹介しよう！」のルーブリック

(3) 話す力から書く力につなげるための帯活動(ライティング小テスト)

十分なスピーキング活動の後に話した内容を書くことにより、「コミュニケーションの手段として書く」ということを意識させた。授業の終末、または家庭学習で書いた内容を小テストで確認した。



「自分が好きな人物について10文以上の英語で紹介しよう！」の授業(スピーキング活動)のあとに生徒が書いた英文

2 自己表現活動において主体的に間違いや弱点を修正できるフィードバックの工夫

(1) 単元及び学期末スピーキングテストのルーブリックを活用したフィードバック

主体的に間違いや弱点を修正できるように、次に何をどのように努力すればよいかを自分で考えさせるように、教師からはできるだけシンプルなフィードバックを与えるようにした。

No.	紹介内容	評価	備考
1	名前	③・2・1・0	
2	年齢	③・2・1・0	
3	誕生日	3・②・1・0	is X
4	出身	③・2・1・0	
5	特技	③・2・1・0	
6	特徴・性格	③・2・1・0	
7	好きなこと(もの)1	③・2・1・0	
8	好きなこと(もの)2	③・2・1・0	
9	嫌いなこと(もの)	3・②・1・0	like⑤←X
10	この人物に対する自分の気持ち	③・2・1・0	

No.	その他のポイント内容	評価	備考
1	聞いている人を見ながら話す	②・1・0	
2	伝えたい部分を強調しながら話す	②・1・0	
3	ジェスチャーポイント	②・1・0	
4	制限時間内に発表	④・0	

アイコンタクト very good!! 38/40

No.	評価項目	A (5点)	B (3点)	C (0点)
1	聞いている人に伝わるような声で話す。	聞いている人が聞きやすい声の大きさと発音。	聞いている人が聞きとれる声の大きさと発音。	ほとんど聞こえない声で発表。
2	強勢を意識しながら発表する。 (×2)	全ての文の伝えたい部分を強調しながら発表。	ところどころ伝えたい部分を強調しながら発表。	強調する部分がない発表。
3	原稿を覚えて自信をもって発表する。	マッピングをほとんど見ずに発表。	マッピングを3、4回見ながら発表。	マッピングを5回以上見ながら発表。
4	聞いている人たちを見ながら発表する。 (×2)	聞いている人たち(右側、左側、正面の人たち)を見ながら発表。	顔を上げて(正面だけを見ながら)発表。	顔を下げて発表。
5	ジェスチャーを交えながら発表する。 (×2)	必要に応じて、ジェスチャーを交えて発表。		ジェスチャーを全く使わない発表。
6	自己紹介文の長さ	10以上の自己紹介文を話す。	6～9ある。	5以下である。
7	聞いている人が興味・関心をもつような自己紹介の内容であるか。 (×2)	話の内容が10以上ある。	話の内容が6～9ある。	話の内容が5以下である。
8	聞いている人への問いかけを交えながら発表する。 (×2)	問いかけの文を交えて発表することができる。		
合計				46/50

内容がとても良かったです。ジェスチャーも very good!!

PROGRAM 7
単元スピーキングテスト
1 学期末スピーキングテスト
のフィードバック

(2) ペアでの相互評価を行うフィードバック（ピアフィードバック）

単元及び学期末スピーキングテストに向け、ペアやグループで評価シートを使い相互評価を行いながら（フィードバックを受け取りながら）スピーキング練習に取り組ませた。

評価者① Name()	1	2	3	4	ボーナス
評価項目	自己紹介文の数がいくつだったか。	自分ができること(can)またはできないこと(can't)を含めて話できたか。	問いかけの文(Can you~?)を交えて話すことができた。	ジェスチャーを交えて話すことができた。	自分の家族や友だちについても <u>2文以上</u> 紹介できた。
評価					

評価項目が分かりやすく、スピーキングテスト練習をしている途中でも、評価基準を確認する事が出来るから。

自分がまちがいに気付いていない時にペアの人が教えてくれたり、一人で分からないことをやるより、ペアでやったほうが安心してできる感じがするから。

人によって評価のしかたがちがって、1人には伝わっていたけど、他の人には伝わっていないということがわかり、もっとよいものに変えることができたから。

相互評価についての生徒のコメント（10月の生徒アンケートより）

3 生徒が英語検定に積極的に取り組むための環境づくり



集会場の掲示板に貼った英検の日程と、第1回から第3回までの受検者数及び合格者数の一覧表である。生徒がこの表を見ながら、「こんなに合格者がいたんだ！」「私も次、受験してみようかな！」などと話す姿がたくさんみられたこと等から、英検に対する興味が高まったことがうかがえた。

英検の受検者数は、昨年度の74名から今年度は207名と、飛躍的に増加した。英検に挑戦することで、日頃の英語の学習の成果を確かめ、次への意欲へとつなげることができた。

【成果】

1 正確さと流暢さをバランスよく育成する自己表現活動の工夫

(1) 学期末スピーキングテストに向けた単元スピーキングテストの実施及び授業の工夫

CAN-DO リストと関連づけたスピーキングの年間指導計画を作成し、年間・学期の目標（大きな目標）と単元の目標（小さな目標）を設定した。既存の知識に各単元で学習する+αの表現を加えるようなスモールステップ型の活動にすることで、スピーキングの力をより確実なものにすることができた。

(2) 正確さと流暢さをバランスよく育成するためのルーブリック作成及び活用

学習段階に合わせ、「正確さ」と「流暢さ」の評価の比重を工夫したルーブリックを示したことで、生徒自身が「正確さ」と「流暢さ」のバランスの大切さを感じながらスピーキング活動に取り組むことができた。「間違いは失敗ではない」という学びのスタイルを生徒と共に作ることができた。

(3) 話す力から書く力につなげるための帯活動（ライティング小テスト）

スピーキングの授業の後にライティングテストを位置付けるパターンを繰り返したことにより、学習内容の確実な理解へとつなげることができた。また、授業と家庭学習（ライティング練習）を結びつけることにより、生徒に主体的に「正確さ」を伸ばそうとする意欲へとつなげることができた。

2 自己表現活動において主体的に間違いや弱点を修正できるフィードバックの工夫

(1) 単元及び学期末スピーキングテストのルーブリックを活用したフィードバック

間違えた部分はシンプルに指摘し、努力したことをより評価したことで、一人ひとりが達成感を感じられるフィードバックにすることができた。

(2) ペアでの相互評価を行うフィードバック（ピアフィードバック）

ペアで相互評価することにより、教師は全体の様子を見ることができ、さらにステップアップするためのポイントを生徒に伝えることができた。相互評価を行いながら練習に取り組む生徒の様子からも、楽しみながら間違いや弱点を修正し、力を伸ばしていることが分かった。

3 その他

(1) 楽しんで英語を学ぶ生徒の増加

- ・ 夢中になって、授業の最後まで学んでいる生徒が増えた。
- ・ 笑顔でコミュニケーションを図ろうとする生徒が増えた。

(2) 英語学習に対する肯定的な意識の高まり（生徒アンケートへの回答 5月と10月の比較）

- ・ 1年生は1学期と比較して下がったものの、依然として8割の生徒が肯定的な回答をした。
- ・ 2年生は「好きだ」の積極肯定の割合が増えた。(30%→34%)
- ・ 3年生は英語の授業で「好きな活動はない」と答えた生徒が半減した。

◎岩手県学習定着度調査質問紙調査（2年 10月）から

質問項目	本校	岩手県	昨年度
・ 英語の勉強は好きですか →好きだ	41%	28%	17%
・ 英語の授業の内容はよく分かりますか →よく分かる	43%	27%	19%
・ 将来どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか →英語で外国人とコミュニケーションをとれるようになりたい	41%	37%	26% (5月)

◎5月と10月に実施した英語アンケートから



(3) 組織的な取組による教員間の連携

- ・ 取組の内容を教職員間で共通理解を図りながら授業をしたことにより、授業改善につながった。
- ・ ALT や学級担任との連携を密にすることで、より効果的な指導を行うことができた。